



# 地方移住の段階ごとに生じる課題と移住支援策の実態

—大分県国東市と竹田市の移住者と地域おこし協力隊を事例に—

17E5003 太田 裕喜

Keyword: 地方移住 移住支援策 地域おこし協力隊

# 研究の背景と目的

大都市圏への若年層の集中などにより、**地方**ほど人口減少と高齢化の問題は顕在化

平成26年

まち・ひと・しごと創生総合戦略

**地方への新しいひとの流れ**をつくり**定住**させることを基本目標

国の施策

平成27年

半島振興計画

平成27年に改定され

目的規定に**定住の促進**が追加

平成21年

地域おこし協力隊

地方の地域力の維持・強化に取り組み協力隊の**定住・定着**を図る

総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会」より、今後の施策は、**移住の段階ごと**に充実させるべきであるという方向性が示され、移住者に限らず、地域の「**関係人口**」に注目する必要がある。

国東市と竹田市における**移住支援制度**や、**移住支援施設**の実態を把握する。また、「**移住者**」に加え、関係人口の中で**定住可能性**が高い「**協力隊**」の**移住実態**を把握し、**各段階**における課題と、それに対する解決策を考察する。

**移住前**: 移住希望者が**移住先を決定**するまで  
**移住準備段階**: 移住希望者が**転居**するまで  
**移住後**: 転居してから現在まで

以上から、地方移住における移住段階ごとの**課題**や、**今後必要**な移住支援を明らかにする。

# 国東市と竹田市における移住支援策の実態

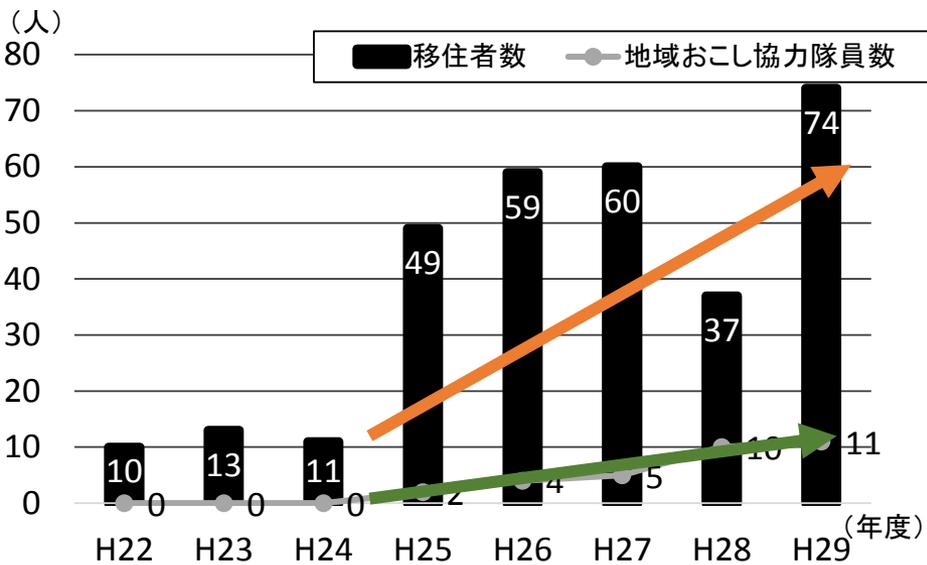


図1 国東市の移住者数と協力隊員数の推移

## <国東市>

移住者数 平成24年と25年を境に**急増**。

協力隊員数 平成25年以降**増加**。

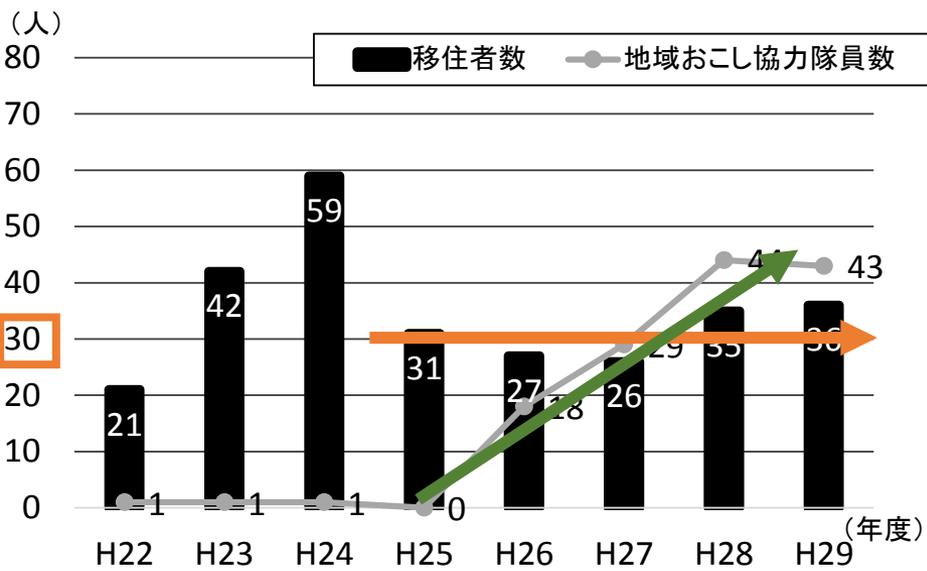


図2 竹田市の移住者数と協力隊員数の推移

## <竹田市>

移住者数 平成24年と25年を境に**減少**,  
その後は30人前後で推移。

協力隊員数 平成26年から**増加傾向**。

平成27年から29年までの**協力隊員数**が、  
全国の市町村の中で**最も多い**。

# 国東市と竹田市における移住支援策の実態

表1 国東市と竹田市の移住支援策(制度)

市	制度名称	支援内容	実施期間	事業費	活用数(H29年度)
国東市	住・創業促進プロジェクト事業(移住者向け個別ツアー)	市役所職員が面接・案内	H28年4月～	66万円	—
	業・起業支援補助金制度	創業・企業補助	H28年4月～	965.3万円	7件
	用支援事業補助金(空き家バンク登録制度)	家財道具処分・引っ越し費用・住宅改修補助	H22年11月～	264.5万円	15件
	住定住促進住宅新築・購入奨励金事業	住宅購入補助	H28年4月～	2120万円	19件
	フルベアレント生活応援事業	単身世帯の引っ越し補助	H28年4月～	40万円	2件
	業ムービング応援補助金	引っ越し補助	H30年4月～H33年3月(予定)	—	2件
竹田市	試し暮らし短期滞在費助成金	移住者・宿泊補助	H22年4月～	H22: 273.6万円	11件
	き店舗対策事業補助金	空き店舗活用・起業補助	H22年4月～	H23: 317.2万円	35件
	史・文化資源活用型企業支援事業補助金	創作家・起業補助	H22年4月～	H24: 764.5万円	16件
	業家育成支援事業補助金	起業補助	H24年4月～	H25: 1010.6万円	11件
	き家活用奨励金	空き家契約・奨励金	H22年4月～	H26: 594万円	7件
	き家改修事業補助金	移住者・空き家改修補助	H22年4月～	H27: 1025万円 (県補助: 55万円)	2件
	き家バンク登録前の空き家改修事業補助金	空き家改修補助	H27年4月～		3件
	ーン促進住宅取得・住宅改修事業補助金	Uターン・住宅補助	H28年4月～	H28: 1488.6万円 (県補助: 110万円)	1件
世帯同居等定住支援事業補助金	三世帯世帯・住宅補助	H28年4月～		0件	

- ①: 情報収集(地域交流施設, 田舎暮らし体験, 宿泊補助など)
- ②: 起業就業(起業・就業の相談や支援など)
- ③: 住宅(住居の改修・購入費用, 家賃補助, 引っ越し費用補助など)

移住者が多い国東市では, 住宅の購入費用や改修費用の補助が活用されている。

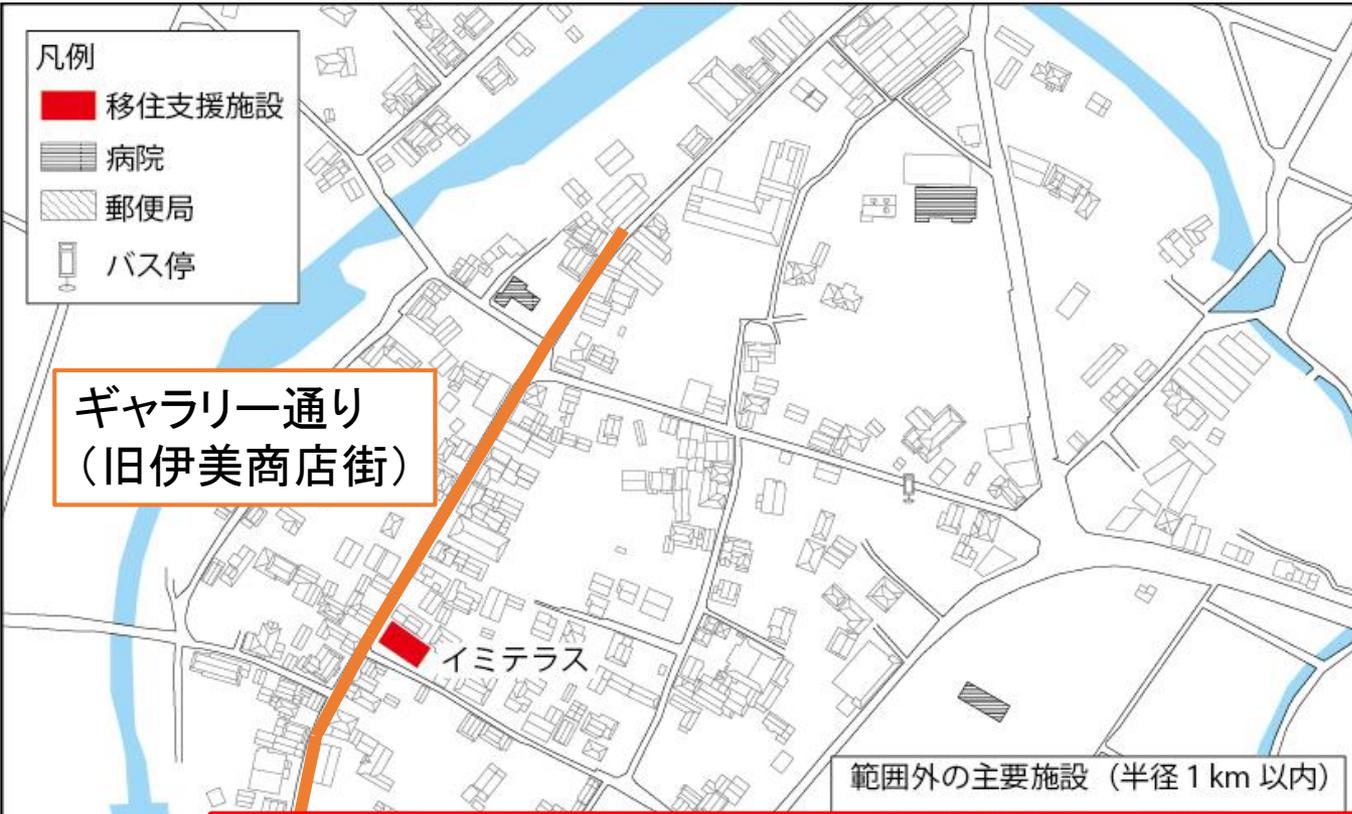
協力隊員数が多い竹田市は, 起業費用の補助が活用されている。

国東市と竹田市の移住者数の推移と, 支援制度の活用数から, 制度のあり方が移住者や協力隊の増加に影響することが確認できた。

# 国東市における移住支援策の実態

表1 国東市と竹田市の移住支援策(施設)

市	施設名称	利用内容			運営期間	所有/管理	成果	
		①	②	③				
国東市	TSURUGAWAコーナ	●			地域交流, イベント利用	H24年12月～	国東市民(市が借用) /国東市雇用促進協議会	利用回数: 67回/年
	イミテラス	●			地域交流, 宿泊, イベント利用	H26年7月～	国東市民(市が借用) /NPO法人国東半島くにも粋群	利用者数: 294人/年
	KOGAWA横丁	●			地域交流, イベント利用	H29年2月～	国東市民(市が借用)/民間団体	利用者数: 最多50人/月
竹田市	城下町交流館「集」	●			地域交流, 移住相談	H25年5月～H28年4月	竹田市/竹田市	—
	竹田まちホテル(リカド2階)	●			宿泊	H29年8月～	竹田市民 /元竹田市地域おこし協力隊員	—



国東町  
→TSURUGAWAコーナ  
地域交流・イベント利用

国見町  
→イミテラス  
地域交流・イベント利用  
宿泊(移住希望者)

安岐町  
→KOGAWA横丁

周辺には、芸術や工芸などの創作活動を生業とする**移住者が集住**。前面道路は、ギャラリー通りと呼ばれており、複数のギャラリーや工房が立地し、**芸術イベント**を開催している。

# 国東市における移住支援策の実態

表1 国東市と竹田市の移住支援策(施設)

市	施設名称	①	②	③	利用内容	運営期間	所有/管理	成果
国東市	TSURUGAWAコーナ	●			地域交流, イベント利用	H24年12月～	国東市民(市が借用) /国東市雇用促進協議会	利用回数: 67回/年
	イミテラス	●			地域交流, 宿泊, イベント利用	H26年7月～	国東市民(市が借用) /NPO法人国東半島くにも粋群	利用者数: 294人/年
	KOGAWA横丁	●			地域交流, イベント利用	H29年2月～	国東市民(市が借用)/民間団体	利用者数: 最多50人/月
竹田市	城下町交流館「集」	●			地域交流, 移住相談	H25年5月～H28年4月	竹田市/竹田市	—
	竹田まちホテル(リカド2階)	●			宿泊	H29年8月～	竹田市民 /元竹田市地域おこし協力隊員	—

芸術や工芸などの創作活動を生業とする移住希望者向けの宿泊施設である。普段は、田舎暮らし体験の施設であるが、芸術イベントの際は、ギャラリーとして利用され、**地域のにぎわい創出にも寄与**している。



図3 国東市移住支援施設「イミテラス」の配置と間取り

# 竹田市における移住支援策の実態

表1 国東市と竹田市の移住支援策(施設)

市	施設名称	利用内容			運営期間	所有/管理	成果	
		①	②	③				
国東市	TSURUGAWAコーナ	●			地域交流, イベント利用	H24年12月～	国東市民(市が借用) /国東市雇用促進協議会	利用回数: 67回/年
	イミテラス	●			地域交流, 宿泊, イベント利用	H26年7月～	国東市民(市が借用) /NPO法人国東半島くみにみ粋群	利用者数: 294人/年
	KOGAWA横丁	●			地域交流, イベント利用	H29年2月～	国東市民(市が借用)/民間団体	利用者数: 最多50人/月
竹田市	城下町交流館「集」	●			地域交流, 移住相談	H25年5月～H28年4月	竹田市/竹田市	—
	竹田まちホテル(リカド2階)	●			宿泊	H29年8月～	竹田市民 /元竹田市地域おこし協力隊員	—



城下町交流館  
「集」  
↓  
**地域交流・移住相談**

竹田まちホテル  
「リカド2階」  
↓

空き家を活用した「竹田まちホテル」のひとつであり、移住支援だけでなく**空き家の解消にも寄与**している。

平成28年に「集」が移住支援施設としての役割を終え、平成29年にリカド2階が、開設されたことから、竹田市は、施設で行う支援を、移住「**相談**」から移住「**体験**」に変化させている。

# 竹田市における移住支援策の実態

表1 国東市と竹田市の移住支援策(施設)

市	施設名称	①	②	③	利用内容	運営期間	所有/管理	成果
国東市	TSURUGAWAコーナ	●			地域交流, イベント利用	H24年12月～	国東市民(市が借用) /国東市雇用促進協議会	利用回数: 67回/年
	イミテラス	●			地域交流, 宿泊, イベント利用	H26年7月～	国東市民(市が借用) /NPO法人国東半島くにも粋群	利用者数: 294人/年
	KOGAWA横丁	●			地域交流, イベント利用	H29年2月～	国東市民(市が借用)/民間団体	利用者数: 最多50人/月
竹田市	城下町交流館「集」	●			地域交流, 移住相談	H25年5月～H28年4月	竹田市/竹田市	—
	竹田まちホテル(リカド2階)	●			宿泊	H29年8月～	竹田市民 /元竹田市地域おこし協力隊員	—

1階は元地域おこし協力隊員が経営する飲食店となっており, 飲食店を地域住民や移住者が訪れることで, 交流機会を誘発する可能性を高めている。



各市は、地域の拠点となるような場所に移住支援施設を開設している。また、田舎暮らし体験のための宿泊機能と、展示室や飲食店などを併せて設けることで、地域住民などとの交流機会を誘発する可能性を高めている。

# 【移居前】における移住の課題と解決策

表2 移住者の移居前における課題と解決策

課題	国東 竹田	課題の内容	解決策	解決 主体
①情報収集における課題	●	①現地で情報を得るのに苦労	● 移住希望者用の宿泊施設があると、じっくり探せたと思う(H22)	未解決【施設No.2を利用】 ×
	●	②詳細な地域情報の収集が不十分	● 情報を十分に得るのが難しい(H21)	近所の方に相談 ▲
	●		● 情報の提供不足。宿泊施設の情報を知らなければ移住体験した。(H22)	未解決【施設No.2を利用】 ×
	●	③移住希望者への自治体の対応	● エリアごとの情報が欲しかった。気候、交通、どこにどこがあるか(H23)	未解決【制度No.1を利用】 ×
●	④就業情報の不足	● 受け入れ態勢ができてない(H24)	未解決 ×	
	●	● 移住の窓口がなかったり、窓口が分からない自治体がある。(H24)	未解決 ×	
	●	● どこで仕事をすればよいか分からない	未解決 ×	
②移住後の生活に対する不安	●	②移住後の生活に対する不安	● 収入を得る方法を質問する	○
③農地付物件を借りる敷居の高さ	●	③農地付物件を借りる敷居の高さ	● 収入を得る方法を質問する	○

## ①情報収集における課題

## ②移住後の生活に対する不安

## ③農地付物件を借りる敷居の高さ

解決主体の凡例 ○:自ら解決 ■:行政の協力 ▲:地域住民の協力 ×:未解決

表3 協力隊の移居前における課題と解決策

課題	国東 竹田	内容 (内は課題発生年度)	解決策 【内は解決策(表1参照)】	解決 主体
①情報収集における課題	●	①現地で情報を得るのに苦労	● 現地の情報は現地で知りたいが、何度も来るのは遠方からは難しい(H28)	現地視察(移住体験ツアー) ■
	●	②詳細な地域情報の収集が不十分	● 現地での生活がどのようなものか分からない(H26)	未解決【施設No.2を利用】 ×
	●		● ディープな情報はWebには載っていない。(H28)	イベント参加や現地調査、自治体を訪問する ○
	●	③就業情報の不足	● HPを見るだけでは内部の実情が分からなかった。実際にやってる人の話を聞かないと分からないので全くツテがない人には不利。(H28)	未解決【制度No.7を利用】 ×
	●	● 治安が良いか悪いか分からない(H28)	市役所職員に相談	■
	●	● 田舎における離婚事情。田舎は都会に比べ離婚が少ないため、どう見られているか分からない。(H28)	市役所職員に相談	■
②移住後の生活に対する不安	●	● ハローワークのHPにほとんど仕事が載っていなかった。(H28))	未解決	×
	●	● 全く知らない場所への不安(H26)	移住後、市内の方が色々教えてくれた	▲
	●	● 地元とはいえ、SNS等の情報が少なくとても不安だった。(H28)	人とつながったことで、情報が入ってくるようになった。	▲
③不動産情報の不足	●	● 不動産の情報が少なく、移住後住居があるのか不安だった。(H29)	市役所が案内、用意してくれた。(手続き 家賃補助)	■

解決主体の凡例 ○:自ら解決 ■:行政の協力 ▲:地域住民の協力 ×:未解決

## 解決主体の凡例

- : 自ら解決
- : 行政の協力
- ▲: 地域住民の協力
- ×: 未解決

# 【移居前】における移住の課題と解決策

表2 移住者の移居前における課題と解決策

課題	国 東 田	内容 ( )内は課題発生年度	解決策 【】内は解決策(表1参照)	解決主体
情報収集における課題	●	移住希望者の宿泊施設があると、じっくり探せたとと思う(H22)	未解決【施設No.2を利用】	▲
	●	情報を十分に得るのが難しい(H21)	近所の方に相談	×
	●	情報の提供不足。宿泊施設の情報を知っていれば移住体験した。(H22)	未解決【施設No.2を利用】	×
	●	エリアごとの情報が欲しかった。気候、交通、ローカルルール。(H22)	未解決【制度No.1を利用】	×
	●	どこに移住すれば良いかわからない(H24)	未解決【制度No.1を利用】	×
	●	受け入れ態勢ができてない(H24)	未解決	×
	●	移住の窓口がなかったり、窓口がわからない自治体がある。(H24)	未解決	×
	●	どこで仕事をすればよいか分からない	未解決	×
②移住後の生活に対する不安	●	将来の見通しが立たない(H24)	収入を得る方法を複数考える	×
	●	仕事を辞めるため将来の不安(H23)	次の仕事を考えてから動く	×
③農地付物件を借りる敷居の高さ	●	農地を借りるハードルが高い(H24)	未解決	○

解決主体の凡例 ○: 自ら解決 ■: 行政の協力 ▲: 地域住民の協力 ×: 未解決

移住前の課題は11件

8/11件が<①情報収集における課題>



内容をみると、必要な情報は**気候や交通事情など、詳細な地域情報**であることがわかった。

表3 協力隊の移居前における課題と解決策

課題	国 東 田	内容 ( )内は課題発生年度	解決策 【】内は解決策(表1参照)	解決主体
情報収集における課題	●	現地の情報は現地で知りたいが、何度も来るのは遠方からは難しい(H28)	現地視察(移住体験ツアー)	×
	●	現地での生活から知らない(H2)	解決主体の凡例	○
	●	ディープな情報。(H28)	○: 自ら解決	
	●	HPを見るだけからなかった	■: 行政の協力	×
	●	を聞かない人がいない人に	▲: 地域住民の協力	■
	●	治安が良い田舎におけるに比べ離婚しているか	×: 未解決	×
	●	ハローワークのHPにほとんど仕事載ってなかった。(H28))	未解決	■
	②移住後の生活に対する不安	●	全く知らない場所への不安(H26)	移住後、市内の方が色々教えてくれた
	●	地元とはいえ、SNS等の情報が少なくとても不安だった。(H28)	人とつながったことで、情報が入ってくるようになった。	▲
③不動産情報の不足	●	不動産の情報が少なく、移住後住居があるの不安だった。(H29)	市役所が案内、用意してくた。(手続き、家賃補助)	▲

解決主体の凡例 ○: 自ら解決 ■: 行政の協力 ▲: 地域住民の協力 ×: 未解決

移住前の課題は10件

7/10件が<①情報収集における課題>



そのうち4件は**市職員に相談したり、市主催の移住体験ツアーに参加するなど、行政の協力**により、2人が解決を図っていた。

この段階では、移住者も協力隊も「**移住希望者**」であり、発生している**課題は共通**している。また、課題の解決に行政が関わる場合、その移住希望者は**協力隊になる可能性が高くなる**と推察される。

# 【移住準備段階】における移住の課題と解決策

表4 移住者の移住準備段階における課題と解決策

課題	国竹東田	内容 ( )内は課題発生年度	解決策 【】内は解決策(表1参照)	解決主体
情報収集における課題	●	遠いため何度も来るのが大変。1回しか来れず地域のことがよく分からない。(H28)	未解決【制度No.1を利用】	×
	●	金銭面の負担が多い(H24)	未解決【制度No.7を利用】	×
	●	自治体が、良い部分しか見せない。こちらからは聞きづらい。(H24)	未解決【施設No.5を利用】	×
	●	物件探し中に、家賃、条件等が空き家バンクのサイトに載っていない。大家に会いに行くため2度手間。(H24)	未解決	×
	●	欲しい物をどこで手に入れば良いか分からない。地域の暮らしの情報不足。(H25)	未解決【施設No.2を利用】	×
	●	仕事探しに苦労した(H24)	未解決	×
	●	ハローワークに載ってない内容がある。情報量が少ない。(H24)	未解決	×
	●	どこに起業の相談をすればよいか分からなかった(H25)	知人に相談	▲
	●	起業する上で見通しが立てづかった(H25)	未解決	×
	②不動産事情	●	自分が思った以上に安い物件が少ない(H24)	未解決
③協力隊採用から転居までの課題	●	引越し期間が短い(H24)	未解決	×
	●	トレーニングファームへの引越しの準備が大変(H27)	未解決	×

解決主体の凡例 ○: 自ら解決 ■: 行政の協力 ▲: 地域住民の協力 ×: 未解決

## 移住準備段階の課題は12件

9/12件が<①情報収集における課題>



必要な情報は**起業や就業、住宅の情報**であることがわかった。

この段階で、移住者と協力隊の課題の内容に**差異が表れた**。移住者は、移住支援策を利用すれば**解決可能だった課題がある**ことから、移住者へ向けた移住支援策の**周知が必要**であると考えられる。

表5 協力隊の移住準備段階における課題と解決策

課題	国竹東田	内容 ( )内は課題発生年度	解決策 【】内は解決策(表1参照)	解決主体
①現地での情報収集	●	竹田までの交通機関が少なく、雪の日が大変。(H28)	未解決	×
	●	集落単位での移住者に対する意識が分からない(H28)	未解決【制度No.1を利用】	×
②単身者向け住居の不足	●	一人暮らし用のアパートが少ない。単身向けが少ない。(H28)	未解決	×
	●	住居の選択は限られる。単身用はほぼない。(H28)	未解決	×
③協力隊採用から転居までの課題	●	東京と大分で連絡がとりづらく、いつから移住できるか等が急遽決まり、余裕がなかった(H26)	未解決	×
	●	保育園・小学校・銀行などの手続きが大変(H28)	未解決	×
④同世帯員への説得	●	家族からの承諾(H28)	未解決	×

解決主体の凡例 ○: 自ら解決 ■: 行政の協力 ▲: 地域住民の協力 ×: 未解決

## 移住準備段階の課題は7件

挙げられた課題が最も少ない段階



<③転居時の課題>で<①協力隊採用から転居までの課題>ことがわかっているため、**課題自体が発生しにくかった**と考えられる。

# 【移住後】における移住の課題と解決策

表6 移住者の移住後における課題と解決策

課題	国 東 田	内容 ( )内は課題発生年度	解決策 【】内は解決策(表1参照)	解決 主体
①周辺施設の不足	●	車や機械類が故障の時に修理を頼む所が遠い(H23)	未解決	×
	●	子どもの習い事に行くのが大変orない(H25)	自身の車でまかなう	○
	●	店が少ない(H29)	未解決	×
	●	遊びに行くのが遠い(H28)	未解決	×
②公共交通手段の不足	●	交通の便が不便(H25)	未解決	×
	●	交通の便が悪い。本数が少ない・値段が高い。(H27)	未解決	×
③気候における課題	●	冬が思った以上に寒く、水道管が破裂して困った(H23)	天気予報を良く見て、冷え込みそうな日は水を出して凍結防止(近所の人に相談してアドバイスを頂く)	▲
	●	寒い。九州はもっと温かいと思っていた。(H27)	家などは、自分で手を加えて対応	○
④不動産事情の課題	●	浄化槽がない。生活排水をそのまま川へ流すため気を使ってしまう(H29)	未解決	×
	●	広いため、草刈りが大変(H29)	未解決	×
	●	家の造りが古く、寒い(H29)	薪ストーブ、囲炉裏で暖を取り、寒さを楽しむ	○
⑤地域住民との交流上の課題	●	若い人が少ないため地域の出事が多い(H26)	未解決	×
		地域のルールに追いつけない。決め事や取組み。(H27)	移住相談担当者へ相談	■
	●	自由な時間は増えたが、頼まれごとが増えた。(H24)	未解決	×
		自治体関係の行事がある。文化のギャップ。(H28)	未解決	×
●	新参者が入りづらい(H27)	未解決	×	
	●	地元のマッサージ協会が新規参入を受け入れない姿勢(H26)	未解決	×
⑥生活費の支出増加	●	思った以上にガソリン代が必要。店が遠いため。(H23)	未解決	×
	●	どこに行くにも車に乗るので、歩くことが減った(H23)	意識的に歩くようにしている	○
	●	子どもの治療費がかかる。関東は無料。(H26)	未解決	×
	●	意外と生活費が掛かる。都会では車は不要など(H26)	未解決	×
	●	日用品など物価が高い(H25)	未解決	×
	●	子育て・旅行・車・日用品など、都会よりお金がかかる(H25)	未解決	×
⑦通信環境	●	ポケットWi-fiが入らない(H27)	未解決	×
	●	ネット環境に難あり。ケーブル必須(H29)	スマホで解決	○
⑧協力隊活動上の課題	●	地域が求める協力隊と行政が求める協力隊は違う(H27)	未解決	×
⑨動物被害	●	田舎ならではの動物被害(H29)	侵入経路をふさぐ	○

解決主体の凡例 ○: 自ら解決 ■: 行政の協力 ▲: 地域住民の協力 ×: 未解決

表7 協力者の移住後における課題と解決策

## 移住後の課題は27件

●	ヒニはあるところはある(H27)	市内の人にどこがいいか情報を得る	▲
●	病院や業者は少ない(H27)	都市銀行がない(H28)	×

<⑤地域住民との交流上の課題>  
<⑥生活費の支出増加>

②公共交通手段の不足	●	遊ぶ場所が少ない(H28)	未解決	×	
	●	飲食店を主として、休みがほとんど。(H29)	公共交通機関はほぼ使わず、バスも1日数本。(H27)	未解決	
	●	空港に着いたら荷物と動けない(H27)	交通の便が悪い	未解決	×
	●	交通の便が悪い	交通の便が不便(車がない)(H29)	未解決	×
③気候における課題	●	湿度が高すぎる。持参した家具にカビがはえた。(H28)	未解決	×	
	●	天候・湿度が肌に合わない(H29)	未解決	×	

最多

これは、移住前に、**地域住民と十分な交流機会を得られず**、移住先での**暮らしを明確に想像できなかった**ためであると推察できる。

①地域の出事や近所付き合いに苦労	●	他方面から必要とされるが、全てに行くのは難しい。(H29)	自分のやりたいことにしぼって参加するようにした。	○
	●	仕事と生活の人間関係が近すぎる。もしくはほぼ同じ。(H29)	未解決	×
②地域住民との関係づくりに苦労	●	アパートでは地域と関われない(H27)	一軒家に引っ越し	○
	●	ガソリンが高い。(H29)	未解決	×
⑥生活費の支出増加	●	お店を営む人が高齢者ばかりで、数も少なく、競争相手がいないため物価が高い。(H29)	未解決	×
	●	地域おこし協力隊の車両を使用する際の成約(H29)	人に乗せてもらうようになった	▲

解決主体の凡例 ○: 自ら解決 ■: 行政の協力 ▲: 地域住民の協力 ×: 未解決

# 【移住後】における移住の課題と解決策

表6 移住者の移住後における課題と解決策

課題	国東市	竹田市	内容 ( )内は課題発生年度	解決策 【】内は解決策(表1参照)	解決主体
①周辺施設の不足	●		車や機械類が故障の時に修理を頼む所が遠い(H23)	未解決	×
	●		子どもの習い事に行くのが大変orない(H25)	自身の車でまかなう	○
	●		店が少ない(H29)	未解決	×
	●		遊びに行くのが遠い(H28)	未解決	×
②公共交通手段の不足	●		交通の便が不便(H25)	未解決	×
	●		交通の便が悪い。本数が少ない・値段が高い。(H27)	未解決	×

## 移住後の課題は26件

### <①周辺施設の不足>

9/26件 **最多**

### <②公共交通手段の不足>

5/26件 **2番目に多い**

①と②の課題は、**移住者も協力隊も共通して、国東市の方に偏っていた。**

表7 協力者の移住後における課題と解決策

課題	国東市	竹田市	内容 ( )内は課題発生年度	解決策 【】内は解決策(表1参照)	解決主体
①周辺施設の不足	●		深夜までやっている店は少ない。コンビニはあるところはある(H27)	未解決	×
	●		病院や業者は少ない(H27)	市内の人にどこがいいか情報を得る	▲
	●		都市銀行がない(H28)	未解決	×
	●		子どもをどの学校に通わせれば良いか分からない。教育レベルの差がある。選択肢が少ない。(H29)	未解決	×
	●		欲しい調味料がすぐ買えない。ネットでの買い物ばかりで辛い。(H29)	未解決	×
	●		買い物が多く不便(H28)	未解決	×
	●		集落に入ると出事が多い(H28)	未解決	×
	●		遊ぶ場所が少ない(H28)	未解決	×
	●		飲食店を主として、休みが多いお店がほとんど。(H29)	未解決	×
	②公共交通手段の不足	●		公共交通機関はほぼ使えない。電車なし、バスも1日数本。(H27)	車での移動のみ
●			空港に着いたら車がないと動けない(H27)	未解決	×
●			交通の便が悪い(H28)	未解決	×
●			交通の便が悪く、友人呼べない(H29)	未解決	×
③気候における課題	●		湿度が高すぎる。持参した家具にカビがはえた。(H28)	未解決	×
	●		天候・湿度が肌に合わない(H29)	未解決	×
④希望住居の不足	●		なかなか空き家が見つからない。店舗も探しているため。(H29)	未解決	×
	●		家賃が高く、アパートが少ない(H29)	家賃補助のおかげで負担なく住めている。(地域おこし協力隊の任期期間のみ)	■
⑤地域住民との関係	●		下水が通っていなかった(H29)	未解決	×
	●		プライバシーはないことが多い。良くも悪くも目立つ。(H27)	未解決	×
⑥生活費の支出増加	●		他方面から必要とされるが、全てに行くのは難しい。(H29)	自分のやりたいことにしぼって参加するようにした。	○
	●		仕事と生活の人間関係が近すぎる。もしくはほぼ同じ。(H29)	未解決	×
	●		アパートでは地域と関われない(H27)	一軒家に引っ越し	○
⑥生活費の支出増加	●		ガソリンが高い。(H29)	未解決	×
	●		お店を営む人が高齢者ばかりで、数も少なく、競争相手がいないため物価が高い。(H29)	未解決	×

国東市では、周辺施設や公共交通手段の不足により発生する不満を緩和するような対策が必要であると考えられる。

# 総括

本研究は、大分県国東市と竹田市を対象とし、各市の移住支援策の実態や、移住者と協力隊の移住実態から、移住段階ごとに、今後必要な移住支援を明らかにした。その結果、得られた知見を以下に示す。

## ① 移住支援策の実態

### 移住支援制度

- 移住支援制度のあり方が移住者や協力隊の増加に影響することが確認できた。

### 移住支援施設

- 地域の拠点となるような場所に移住支援施設を開設している。
- 各市の移住支援施設は、どちらも1つの建物に2つの用途がある点が共通していた。



このことから、各市は、田舎暮らし体験のための宿泊機能と、展示室や飲食店などを併せて設けることで、地域住民などとの交流機会を誘発する可能性を高めている。

本研究は、大分県国東市と竹田市を対象とし、各市の移住支援策の実態や、移住者と協力隊の移住実態から、移住段階ごとに、今後必要な移住支援を明らかにした。その結果、得られた知見を以下に示す。

---

## ②移住者と協力隊の移住実態

**移居前：** 共通して<①情報収集における課題>が多く、移住先地域の気候や交通事情など、詳細な地域情報を、移住前に求めていることがわかった。

**移住準備段階：** <①情報収集における課題>が多く挙げられているが、必要な情報は、起業や就業、住宅の情報であることがわかった。



各段階に応じた情報提供が必要だと考えられる。

**移住後：** 移住者は、<⑤地域住民との交流上の課題>が最も多かった。しかし、協力隊は、⑤の課題が多くなかったことから、今後は、移住者に対する定住者の協力体制、地域支援員制度などの充実を図る必要があると考えられる。